

2020年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2021年 5月 13日

和光大学地域連携研究センター
センター長 小林 猛久 殿

代表者氏名 高坂康雅

研究プロジェクトの名称 大学を中心とした地域の不登校支援ネットワークの構築				
研究目的 申請プロジェクトでは、大学を中心として、地域にいる不登校の子ども、不登校の子どもを抱える親・家庭、不登校の子どもの支援を行う者(教師、支援者など)、不登校など困難を抱える子どもの支援を行うことを志望している学生などが相互につながり、不登校に対する情報交流とより良い支援を行うための連携・協力を行うためのネットワークを構築することを目的とした。				
プロジェクト所属メンバー (氏名の右の欄に、本学専任教員=教、共同研究員=共と記入してください。)				
高坂康雅	教			

研究活動の経過 (800字以内) (打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。)

2020年9月8日(火)～2021年3月30日(火)：適応支援室「いぐお～る」開室(毎週火曜日9:30～15:30)

※その他予定していた町田市不登校の親の会「いぐぷらす」、町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」などはコロナ禍のため、開催できなかった

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

本プロジェクトの2020年度の主な活動は適応支援室「いぐお～る」の開室と、町田市不登校の親の会「いぐぷらす」の開催、町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」の開催であった。しかし、コロナ禍のため「いぐぷらす」と「いぐあるふぁ」はかいさいすることができなかった。

適応支援室「いぐお～る」は2020年度も毎週火曜日に開催予定であったが、大学のコロナ対策に準じ、4月から8月の間は開室せず、9月8日(火)から通室生・スタッフを2グループに分け、交互に来室するような体制で開室をした。通算23回開室し、主に町田市在住あるいは町田市内の小中学校に在籍する不登校状態または不登校傾向の児童生徒9名を受け入れた。学生スタッフとの交流を通して、精神的健康や社会性の高まりがみられ、学校に登校する者もみられるようになった。2021年3月には3名の中学3年生が卒業したが、いずれも高校への進学が決定しており、2021年4月より高校に通学している。適応支援室「いぐお～る」は、不登校支援の重要な資源として、町田市のなかでも認知されてきており、現在の活動を継続することが、不登校状態・傾向の児童生徒とその保護者、学校、地域においても求められていると考えられる。特に、卒業した通室生1名については、保護者、進学先の高校の教員2名、担当スタッフ(大学院生)、高坂の5名で現状を報告し、今後の支援に向けて情報共有を図る集まりを、適応支援室「いぐお～る」内でもつことができた。地域におけるチーム援助の一端を担うことができ、今後の支援のあり方について一定の成果を示すことができた。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2020年4月～2021年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけこのデータに入力いただき、Eメールでご提出ください。

※ 提出期限：2021年4月30日（金） 提出先=企画室企画係(岡本) kikaku@wako.ac.jp(企画係)